

第58回全日本居合道大会総評

審判長 横田 清隆

令和5年10月21日(土)、東京武道館にて標記大会が開催された。

開会式

開会式では、真砂 威全日本剣道連盟副会長の斯道発展に対する謝意と激励のご挨拶、続いて千葉胤道東京都剣道連盟会長の歓迎と激励のお言葉を賜り、その後、審判長より試合上の注意ならびに指定技の発表があり、開会式が終了する。審判長・審判主任・審判員が配置に付き、各試合場に選手が入場し、全員が起立、審判長の号令により正面に礼をし、武道館の大太鼓が響き渡る中、各会場一斉に試合が開始される。

白熱の試合が繰り広げられ、どの試合も目が離せない状況である。

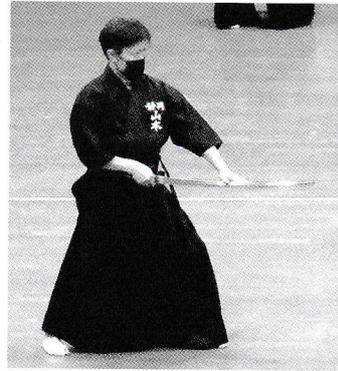
七段の部

決勝は、原田 渡選手(神奈川)



七段優勝 原田(神奈川)

と松下武人選手(静岡)の対戦である。



六段優勝 山本(静岡)

両選手とも威風堂々、気魄漲る対戦であったが僅差で原田選手に軍配が上がった。

また、準決勝で原田選手と対戦した瀧澤朋未選手(群馬)は、気魄充分で技の切れも良く、今後に期待したい。

また、同じく準決勝で松下選手と対戦した宮原浩義選手(長野)も技が素直であり、同じく今後に期待したい。

六段の部

決勝は、山本 亮選手(静岡)

と草間大介選手(新潟)の対戦。

山本選手は五段の部で準優勝2回、草間選手は、一昨年準優勝、昨年優勝である。両選手とも持てる力を出し切り、迫力満点の演武であった。

結果は、僅差で山本選手が優勝する。

準決勝進出の竹敷直人選手(兵庫)・畑中健佑選手(長崎)とも、今回の結果を分析し、自分には何が足りないのか、他者は如何しているのか等研究し、今後に備え稽古に励んで下さい。期待いたしております。

五段の部

決勝は、西川貴都選手(愛知)と田中伸明選手(東京)の対戦。

田中選手は、昨年は五段の部の優勝者であるが、西川選手の修業経験が勝り、西川選手が優勝した。

また大野直人選手(千葉)は昨年は準優勝であったが惜しくも準決勝まで、松浦斉範選手(新潟)も惜しくも準決勝まででした。

試合は両者を比較対照します。普段の稽古において苦手と思う所は無くす様にし、此れ位と思わ



五段優勝 西川(愛知)

ず自分を鍛え、向上して下さいます。期待しております。

閉会式

閉会式は成績発表、団体の部・個人の部の表彰式が行われ、中谷行道全日本剣道連盟専務理事の挨拶があり、閉会となった。

総評

全体的には確実にレベルは向上していると思います。

型に捕らわれ過ぎず、彼我の関係を考え、切ることを意識してほしい。

手の内を確り決め、何処まで切るかが問題です。其処に止めるのではなく、其処まで切るのです。

居合道は武道であります。武道であれば、敵が居る(居合道では仮想敵)。敵が居れば彼我の関係が出来る。教本には各技に「要義」があります、其れをどの様に解釈するかです。

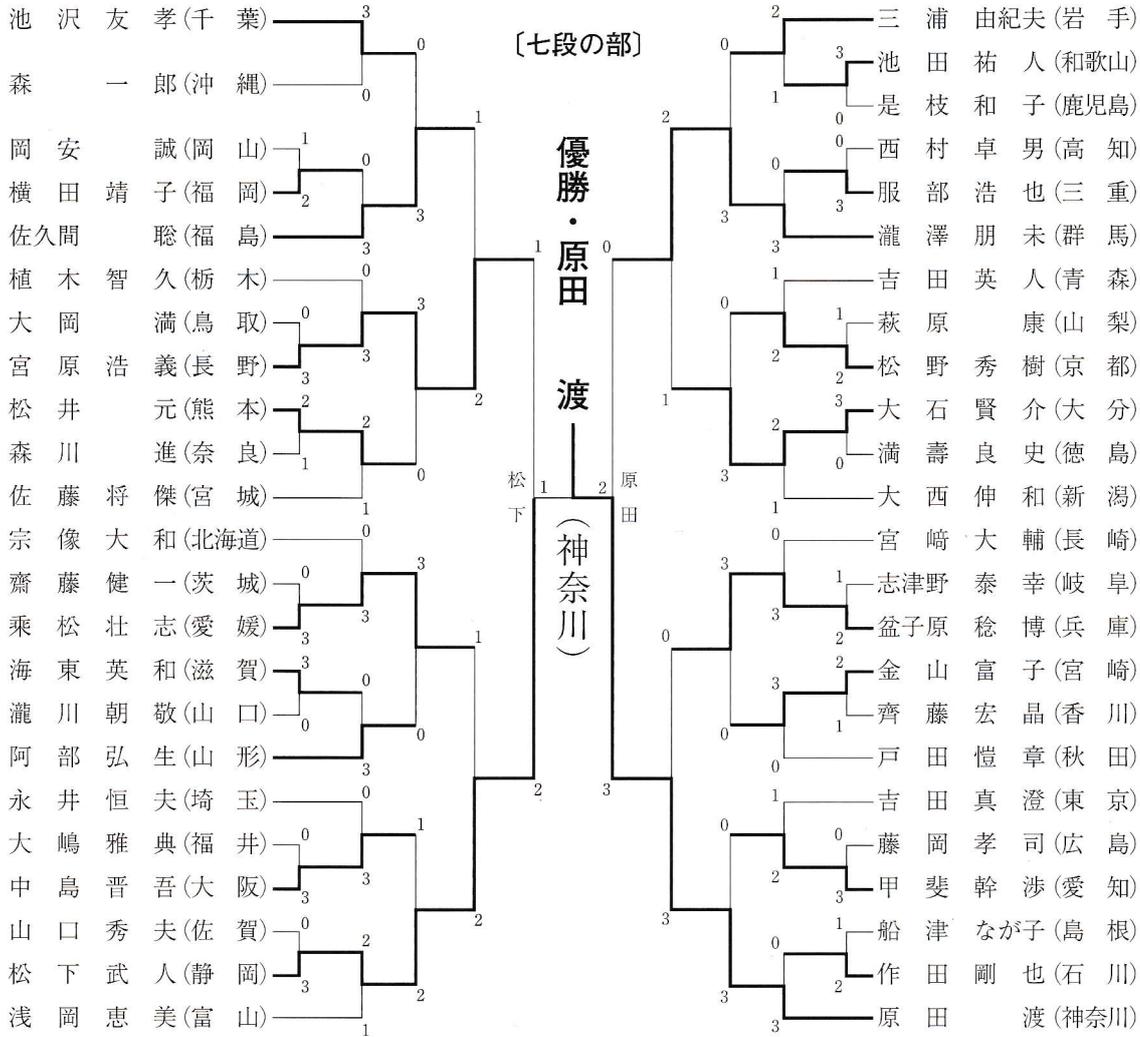
最後に、この大会の開催にあたり、役員の方々、東京都剣道連盟居合道部の方々には、準備から終了まで、全ての部署で温かく接して頂き、会場を去るまで気持ちよく過ごせました。有難うございました。感謝申し上げます。

第58回 全日本居合道大会

都道府県対抗優勝試合

(10月21日(土)・東京武道館 主催・全日本剣道連盟 主管・東京都剣道連盟)

総合成績 第1位・静岡県 第2位・新潟県 第3位・群馬県



ました。
また、我が家は、代々、コメ作り農家でしたが、国の減反政策に



金曜日の午後7時から午後9時まで。更に、日曜日の午前中は、門下生の有志が集まって自由稽古、



団体の部 第2位・新潟県

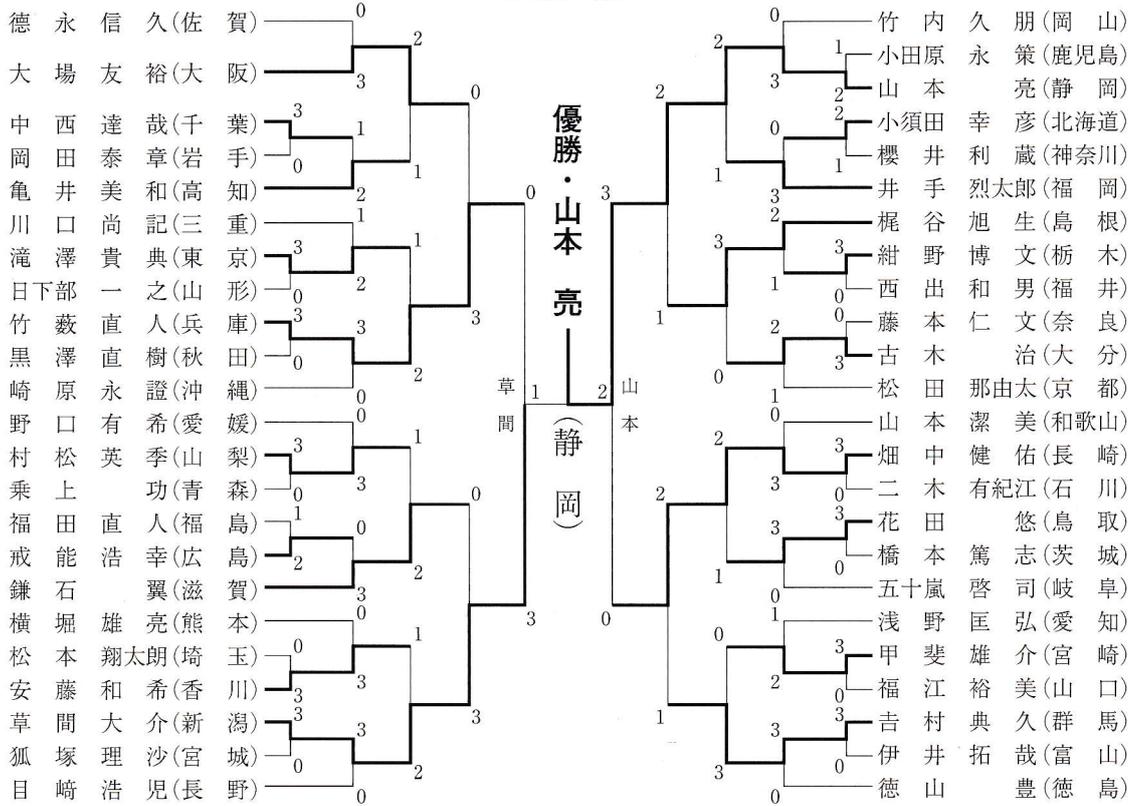


団体の部 優勝・静岡県

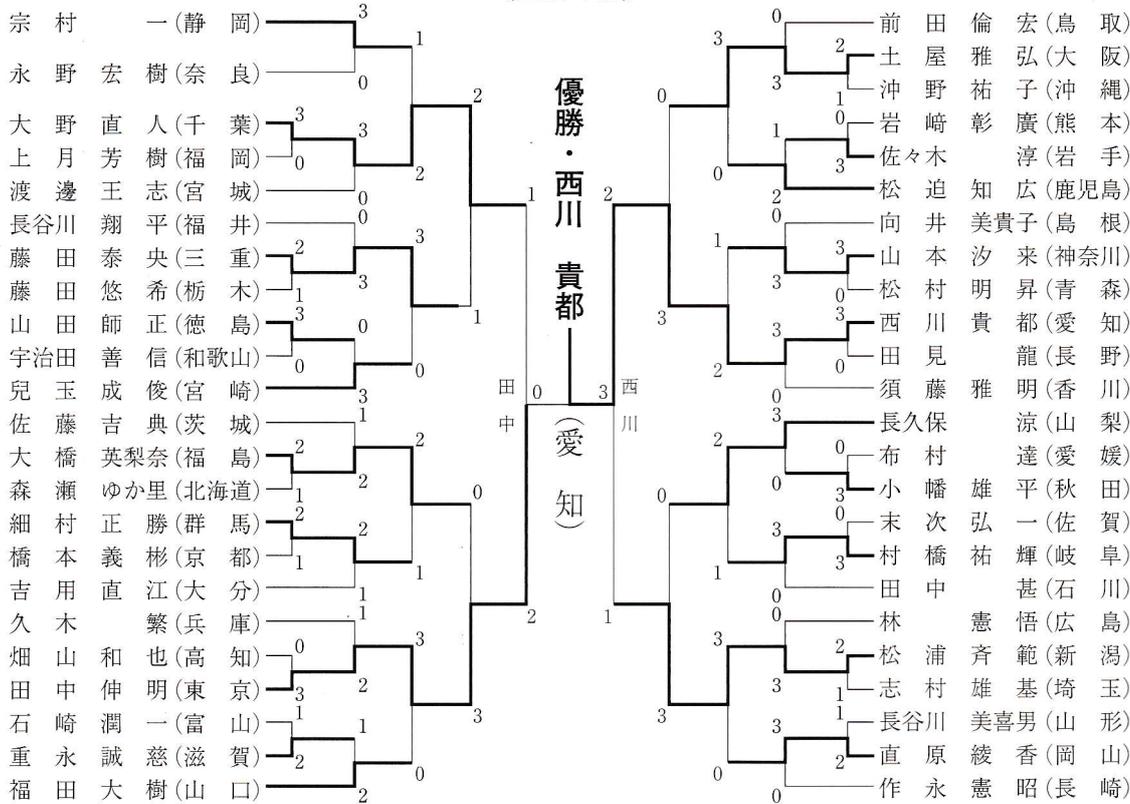


▲香川県順三浦道QRコード
(<https://ar.jp/junseika>)

〔六段の部〕



〔五段の部〕



- ・更正剣道会
- ・みなみの剣道教室
- ・大蔵剣道倶楽部

- ・剣道 海の風
- ・錬心館市原道場
- ・八幡流水館

- ・東明剣道スポーツ少年団
- 〔富 山〕
- ・新湊少年剣道教室

- ・大垣市東部剣道スポーツ少年団
- ・稲羽東剣道少年団
- 〔三 重〕